

日本のペスタロッツチタウン

「日本のペスタロッツチタウン・鏡野」

このフレーズを懐かしく思う方も多いと思います。これは合併前の旧鏡野町が、平成七年度から平成十六年度までの一〇年間の町づくりを行う指針として、来るべき二十一世紀に向けて策定した「鏡野町総合計画」のキャッチフレーズです。

ここに使用されている「ペスタロッツチ」とは、スイスの教育者であり社会事業家であったJ・Hペスタロッツチ（一七四六〜一八二七）のことで、彼の提唱する「頭」(Head)：科学性、合理性)、「心」(Heart)：道徳性、情緒性、文化性)、「手」(Hand)：勤労、健康性)の調和的発達を目標

とする教育理論(3H理論)を「地域づくり」と「人づくり」に生かそうという狙いの下で採用されました。

「日本のペスタロッツチタウン」のフレーズは町内外へ大々的にアピールされ、平成七年(一九九五)にはシンボルマークと「ペスタロッツチ娘」が選考会により選ばれました。シンボルマークは、3H理論を三色でシンボル化し、躍動感あふれ、未来に向かって飛躍する鏡野の人と町を表現したものです。また、八月二十七日から九月三日にかけて、その名が冠された「ペスタロッツチ祭」が開催され、開会記念式典にはペスタロッツチが活躍したスイスのイヴェルドン

市の市長夫妻を招き、盛大に行われました。開催期間中は、子供議会や子どもシンポジウム、産業まつりなど青少年の育成と地域活動の活性化を目指すさまざまなイベントが実施されました。

このことを契機に、平成八年十月には鏡野町とイヴェルドン市が友好憲章を締結する運びとなり、イヴェルドン市内で行われた式典には同市のオリヴィエフィリップ・ケルネン市長夫妻ら八名、鏡野町からは町長夫妻ら一〇名、そして在ジュネーブ日本政府代表部から二名が出席して双方の署名が行われ、両市町の親交が深められました。そして翌年、第一回友好都市交流事業が開始され、一般公募により参加した町民ら計一〇名がイヴェルドン市とスイスの主要都市を六日間の行程で訪問しまし

た。また、平成六年度から始められた「かがみのっ子表彰」事業は平成八年度から「ペスタロッツチ賞」と名を替え実施されました。(現在は「かがみのっ子表彰」に名称を戻していません。)

さらにハード事業としては、国道一七九号バイパスの整備、夢広場・雇用促進住宅の建設、香北簡易水道・大町発電所の稼働などが進められました。

こうした町を挙げての取組は、高い評価を得、平成九年(一九九七)十月三日、地方自治法施行五〇周年記念式典において地域振興部門の県知事表彰を受賞しました。

平成十五年(二〇〇三)に役場南側に完成した図書館・博物館・ホールを併設した総合文化施設は「ペスタロッツチ館」の愛称で親しまれ、館内にはペスタロッツチの業績を紹介した展示室「ペスタロッツチルーム」も設置されています。

「日本のペスタロッツチタウン」のフレーズの下で行われた諸々の事業も、今は過去の歴史になりつつありますが、現在の町づくりの根底には今でもペスタロッツチの教育理念が息づいています。

参考：「鏡野町史」

鏡野町教育委員会 生涯学習課 日下
電話(0868)54-0573



「日本のペスタロッツチタウン鏡野」シンボルマーク



ペスタロッツチ像
ペスタロッツチ館前庭(竹田)



第1回ペスタロッツチ祭(平成7年)